

2017年8月クルディスタン報告書

日本クルド友好協会



総評

アメリカがイラクのクルディスタン地域の独立を問う住民投票に確固とした表明する等逆風はますます大きくなった。先月に引き続き9月に実施されるクルディスタン地域の独立の是非を問う住民投票に向け、イラク中央政府を含め多方面に理解を求める動きが目立つ。中央政府との交渉や会談については、問題解決へ向けての取り組みというより中央政府側にすべきことを全てやり住民投票に至ったという地ならしの意味が強い。クルド側は交渉の意思があるのにイラク側が無視したという構図を作り出すためだ。今月、イラク中央政府に大きな衝撃をもたらしたのは、住民投票がペシュメルガが駐留する全ての地域でなされるという発表である。ペシュメルガはイラク治安部隊によるモスル市街突入開始以前からダーイシュ掃討への関与を低めてきた。キルクーク近郊のハウィジャは長く解放作戦の実施が待ち望まれてきたもののクルド側は動かなかった。兵力を温存しつつ将来の国境とするべくイラク側と接する占領地域に塹壕を掘っていることが報告されていた。中央政府との交渉を経て双方の領域を決定する気はなく、既成事実の積み重ねでクルディスタン地域の領域を確定する腹であることを内外に示した。クルド側が実力を背景に住民投票を強行しようとする中で、懸念されるのがイラクの民兵組織「人民動員軍」の存在だ。この民兵隊はフセイン政権崩壊後各地で生まれたシーア武装勢力に法的地位を与えたもので、中央政府の統制下よりかはそれぞれの指導者ないしはスポンサーの影響下にある。彼らは中央政府の命令なく動くことができるので、住民投票に反対する諸外国特にイランの指示でペシュメルガとの衝突が懸念される。住民投票が実施される予定の地域では、住民が住民投票への参加に対する報復に怯えているという報道も存在した。クルディスタン地域政府大統領マスード・バルザニは改めて住民投票で独立が賛成多数となれば、大統領を辞任する方針を明らかにした。バルザニはかねてより任期を大幅に超過して大統領職に留まり続けていることを批判されてきた。バルザニとしては自身のクルディスタン民主党(PDK)以外の勢力の非難に耐えきれず大統領の座を退くという展開は避けたいところである。イラク中央政府や諸外国が反対しようとクルド人が住民投票を支持する限り、クルディスタン地域の一体性とPDKの主導権を保持しつつ大統領職を上手く退くことができる。住民投票はクルド人が史上初めて民主的な方法で自身の意志を示すという意味で計り知れない意義がある。しかし、投票まで1ヶ月を切った現在においても中央政府との間に横たわる諸問題解決へ向けた道筋は示されておらず、住民投票後も真の独立へは長い道のりがある。

シリアではクルド人中心の北シリア連合軍「シリア民主軍(QSD)」によるダーイシュが首都と位置付けるラッカ攻略作戦が準中に進み、日や週を追うごとに解放される区域は増えていった。ダーイシュがラッカにおいて壊滅することは既定路線として、その後はどうなるかということに関係各国が目撃した。アメリカはイラン・イラク戦争におけるクルド利用の歴史から、シリアのクルド人はダーイシュ掃討後はまたお払い箱にされるという見

方がある。これには多分にクルド問題を抱える各国の願望を含んでいることに注意しなければならない。シリアのクルド勢力はダーイシュ掃討に一番貢献をしたが、トルコ政府がテロ組織の傘下とみなしていることでダーイシュ壊滅後の行方が心配される。アメリカはトルコ政府の懸念と反発をよそに大規模な武器供与を継続した。アメリカ軍はダーイシュ壊滅後も地域安定化のため長期に渡りシリア領内に留まり続ける意向を明らかにした。アメリカは軍撤退後にイラクでダーイシュが勃興したことから、ダーイシュ後の北シリアの安定化をテロ組織掃討そのものより重視しているとみられる。さらに、アメリカはシリア内戦が始まって以来反体制派勢力に「訓練及び装備供与計画」を実施し多額の資金を投じたが、アサド政権は欧米勢力の予想を超えて持ちこたえ昨年のアレッポ陥落以来反体制派は完全に劣勢となっている。シリアのクルド勢力は内戦開始当初に兵力を他地域に割きたいアサド政権側と交渉し北シリアに駐留する政府軍の主力部隊を撤退させることに成功した。またPYDはシリア反体制派に多数のイスラム過激派が参加していることを警戒し、YPGと自由シリア軍は何度も砲火を交えてきた。このような経緯からシリア反体制派はシリアのクルド人をアサドの味方と非難してきた。一方でYPGが主導するQSDには、「革命軍」や「クルド戦線」といった反体制派の流れを汲む勢力が参加し、政府軍部隊の投降と参加が報じられてきた。PYDも2016年4月に連邦制樹立を宣言したように、シリアの変革を唱える立場は反体制派的であると言える。アメリカは反体制派支援の失敗を取り戻すべく、クルド人との同盟関係を通じシリアに地歩を築くことを目指しているように思われる。北シリアのクルド人の存在は、イラクのみならずシリアにおいても長くアメリカのプレゼンス保持に欠かせないと見られるようになっている。

文責：並木宜史

NÛÇEYAN—ピックアップニュース

8月1日 - バルザニ：クルディスタン高官が中央政府に対し袂を分かち他ないと発言



スレイマニ：イラクによる虐殺34周年を偲ぶイベントにおいて大統領マスード・バルザニは7月31日、クルディスタン地域政府高官がイラク中央政府に対しイラクとクルディスタンは共に歩むことはできないと発言したことを明らかにした。中央政府による予算停止は毒ガス攻撃と何ら変わらないとした。バルザニ大統領はクルド人は中央政府と共存するためあらゆる手を尽くしてきたが、結局上手くいかなかったと述べた。アンファル作戦の毒ガス攻撃がクルド人に与えた傷を癒すためには独立しかないと主張した。「平和的かつ同胞愛に基づくやり方で独立する以外に中央政府との問題解決の方法はない」と結論付けた。(NTRテレビ)

8月1日 - シリアのクルド人部隊がダーイシュが保持するラッカ南へ進撃



ラッカ：アメリカが支援するクルド人部隊司令官が1日語ったところによると、クルド人部隊はダーイシュが保持するラッカ南部全域をほぼ奪取している。アメリカ主導の有志連合は、クルド人主体のシリア民主軍(QSD)の東部から進撃した部隊が、西から進撃した部隊と後300mで合流すると発表した。有志連合報道官によるとQSDは「順調な進撃」を毎日続けている。QSDは6月6日にラッカ解放作戦を開始して以来、アメリカ軍の空爆支援を受け多くの地区を解放してきた。(ロイター)

写真：ロイター

8月2日 - シリア観光相が観光業促進のためクルディスタン地域を訪問と発言

ヘウレル：シリア観光相は近いうちにイラクのクルディスタン地域首都ヘウレルを訪問し経済を再活性化することを目指すと発言した。バシール・ヤジジ観光相はルダウに対し、「観光分野における関係強化のためバグダッドを訪問した後ヘウレルを訪問する」と発言した。

現在ヘウレルおよびスレイマニとダマスカスの間には一週間ごとの定期便が存在する。ヤジジ観光相は「ダマスカスとクルディスタン地域の直行便は将来の観光業活性化のための最初の一步になる」と説明した。スレイマニ―ダマスカス間の便現在アジナハ・アルシャーム社とフライ・ダマス社が担っている。(ルダウ)

8月2日 - 600万人がクルディスタン地域の住民投票の有資格者

ヘウレル：クルディスタン地域の独立を問う住民投票の実施日が近づき慌ただしさが増す中、クルディスタン独立高等選挙委員会は約600万人に投票資格があると発表した。クルディスタン地域政府は、9月25日の住民投票をキルクークを含むダーイシュとの戦闘の過程で占領した中央政府との係争地域でも実施するとしている。この人数にはこれら地域の住民も含まれている。(バスニュース)

8月4日 - YNK幹部が独立投票の「別の道」の可能性について言及

ダルバンディハン：クルディスタン愛国者連盟(YNK)幹部マラ・バフティヤル氏は、もしクルド人の権利が新たな取り決めによって確実に保護されるのであれば、クルディスタン地域は、独立投票に「別の道」があり得ることをほのめかす発言をした。自身が残り二か月足らずで実施される住民投票で重要な役割を果たす政治勢力に所属するバフティヤル氏は、「連邦制」がクルディスタン地域とイラク中央政府の間の問題を解決するはっきりとした枠組みであると発言した。バフティヤル氏はスレイマニ南のダルバンディヤルハンにおける会合で、「我々は国際的にも地域的にも平等な権利を有するイラクの一部であり続けるか、または自分の運命を自分で決めるべくしかるべき措置を取る」と発言した。(ルダウ)

8月6日 - クルディスタン地域当局は避難民にまぎれた1700人のダーイシュ関係者を摘発

ヘウレル：クルディスタン地域内務相カリム・シンジャリによると、治安当局は各地の難民キャンプにおいて国内避難民にまぎれたダーイシュの戦闘員1700人を逮捕した。クウェートのメディア関係者との会合において、シンジャリ氏は「モスルが解放されたとはいえ、潜入分子の脅威によりダーイシュとの戦争は長く続くであろう。特に問題なのは地下トンネルだ」と発言した。さらに「今後軍事作戦はモスル西のタル・アフアル、それからアンバール西のカイム、続いてキルクーク西のハウィジャで行われるだろう」、と今後の作戦の見通しについて明かした。

8月8日 - トルコ―クルディスタン地域間に貿易のための新たな国境ポイントが開設



ザーホー：イラクのクルディスタン地域と隣接するトルコは、イブラヒム・ハリル国境において貿易を促進するため共同建設をしていた広い橋が間もなく終了する模様。同国境を管理しているフィルサト・モハメド・アリ氏によると、「橋は二か月以内に開通する」見通しだ。橋が双方の利益にとって重要であることに触れ、アリ氏はこれまで双方を行き来するには二つの一方通行の橋しかなかったが、「この橋は対面通行であり330mの幅を誇る。イブラヒム・ハリルにおいて最大の橋にあり、両国の貿易を促進することは間違いない」と期待する。アリ氏によれば、費用は両政府が等しく負担する。（ルダウ）

8月9日 - マスード・バルザニ、クルディスタン住民投票は延期しないと発言

ヘウレル：イラクのクルディスタン地域大統領マスード・バルザニ氏は、地域の独立を問う住民投票よりも望ましい代替案が無いのであれば、住民投票は延期することはできないと発言した。バルザニ氏は9日のヘウレルにおけるクルディスタン地域のイスラム学者との会談した。大統領補佐官ヘミン・ハウラミ氏は、自身のツイッターで「住民投票はクルド人だけのためのものではなく、クルディスタン地域のすべての民族のためのものである」というバルザニ氏の発言を引用した。バルザニ氏はさらに「我々はこれまで何度も憲法違反を繰り返し合意形成を望まないのであれば、イラクの一部にはもはや留まらないと発言してきた」と、イラクは2003年以来クルド人との関係構築に失敗しイラク憲法55条の違反を繰り返してきたことに触れた。（NRTテレビ）

8月9日 - クルディスタン地域住民投票を主導する代表団がバグダッド訪問



ヘウレル：クルディスタン地域の超党派グループの7人は、独立を問う住民投票の進捗を周知するためにバグダッドを訪問した。代表団はクルディスタン民主党(PDK)のロジ・ヌ

リ・シャワイス、クルディスタン地域政府大統領補佐官長フアド・フセイン、クルディスタン愛国者連盟(YNK)のサアディ・ピレ、クルディスタン・イスラム連盟(YIK)のモハメド・アフメド、テュルクメン代表のマジド・オスマン、クリスチャン代表のロメオ・ハカリ、エジーディのPDKメンバーであるヴィラン・ダヒルからなる。代表団はシャワイス氏の自宅にて打ち合わせを行った。9月25日の住民投票をイラク中央政府に尊重させるための交渉は既に難航している。代表団は週明けイラク首相ハイダル・アルアバディと面会する予定であり、政府側も既に受け入れ態勢を整えている。(ルダウ)

8月10日 -住民投票にむけ選挙管理委員会がキルクークとモスルで開設



ヘウレル：イラクのクルディスタン地域選挙管理委員会は、独立を問う住民投票の準備のためキルクークとモスルに事務所を開設すると、クルディスタン民主党(PDK)寄りの関係者が明らかにした。クルディスタン独立高等選挙委員会の委員であるジュトヤル・アディル氏は9日、ペシュメルガが駐留する地域と彼がクルディスタン地域と呼ぶ地域及び中央政府と管轄権を争う地域に投票所が設置されると述べた。アディル氏は、「二日前我々はモスルとキルクークに事務所を開設することを決断した」と明らかにした。さらに選挙管理委員会事務所をカラルに設置し、トゥズフルマトウやハナキンといった地域の選挙監視を行う予定であることも明らかにした。選挙管理委員会は既にこれら新たな事務所に人員配置をしている。(ルダウ)

8月11日 - アルアフラーム紙：マスード・バルザニがエジプト訪問の予定

ヘウレル：クルディスタン地域政府(SHK)大統領マスード・バルザニは11日、近い将来エジプトを訪問することを明らかにした。首脳会談においては地域における同国の役割についてクローズアップされる予定である。バルザニ大統領はエジプトの有力紙アルアフラームのインタビューに応え、「マスルール・バルザニ(安全保障委員長)に近いクルディスタン24テレビのWebサイトで報じられたところによると、エジプトは地域で高い尊敬を受け各国主を導する立場にある。我々は常に同国との相互関係、特にその優れた指導者であるアブデル・ファタハ・アルシシとの関係強化をしてきた」と発言した。一方で具体的な日程については明らかにせず、近い将来訪問することだけに言及した。SHKは今年9月に地域の独立を問う住民投票実施を予定している。(クルディスタン24テレビ)

8月12日 - トルコがドホークに領事事務所を開設



ドホーク：ヘウレルにおけるトルコ領事メフメット・アキフ・イナムが10日発表したところによると、イラクのクルディスタン地域の中にあるドホークの住民はもはやトルコビザ申請のためヘウレルのトルコ領事館へ行く必要はなくなった。アキフ氏は「クルディスタン地域の人々によるトルコビザ申請数は増え続けており、それは特に国境に近いドホーク県において顕著である」とその背景について述べている。イナム氏がクルディスタン24テレビのインタビューに対し、ドホーク住民は新たに開設されたビザ申請センターでトルコビザの給付をできるようになったと明らかにした。イナム氏によると、トルコ政府はビザ給付とクルディスタン地域とトルコの人々の往来の促進を継続する意向である。トルコ大使は9日、ドホーク県の都市ザーホーを訪れた。(クルドプレス)

8月12日 - イラク政府：イラクとクルディスタン地域の問題は対話によって対処可能だった
バグダッド：イラク政府報道官は、9月25日のクルディスタン地域の独立を問う住民投票について、イラクとクルディスタン地域の問題は対話による解決が可能だったと発表した。ハディン報道官は10日NRTアラビアに対し、住民投票はイラク憲法違反であるのみならずイラクの一体性を危険にさらすと発言した。報道官は殆どの国に問題があり、それを解決する志向もまた存在すると発言した。イラクは一体となってこの問題を合意と同意形成によって解決できると主張した。またイラクのある一党が単独でイラクの未来を決めようとしてはならず、全ての個人が問題解決のため動かなければならないと付け加えた。(NRTテレビ)

8月13日 - ゾロアスター教徒は愛と共存を誓う宗教行事を再開



スレイマニ：ゾロアスター教徒たちは、スレイマニ近郊の聖地の山において彼らの信仰と愛と共存を誓う行事を再開した。ゾロアスター教は古代宗教であり、今日のイランやイラクの一部また世界各地で注目を集めている。

イスラムが広がる以前、クルド人のはゾロアスター教が広く実践されていた。ゾロアスター教はその協議である「良き思考、良き行動、良き言葉」によって有名である。彼らは唯一神を信仰し、世界は彼らが拝める火や光で表される「善」と、その対称で

ある「悪」に分かれたとし、それら二つの最終決戦があると信じている。ゾロアスター教は世界で最も信者の少ない信仰と規定されているが、クルディスタンにおける信徒たちは信徒数は増え続けているがその実数が把握されるのを恐れる勢力によって秘密にされていると主張する。(ルダウ)

8月16日 -EUはイラクのクルディスタン地域に難民教育のため264,000ドルを拠出する

ヘウレル：イラクのクルディスタン地域政府(SHK)高等教育及び科学研究省はNRTテレビのネットメディア上で声明を発表し、ヨーロッパ連合(EU)はシリア難民がクルディスタン地域において大学教育を受けられるように264,000ドルを拠出することが明らかになった。SHK高等教育省はシリア難民100人が、UNHCRが提供するDAFI奨学金プログラムや、ドイツの法曹団体連、世界難民団体、イギリス領事官の支援によってクルディスタン地域内の大学で学ぶことを承認した。国際団体はシリア難民のうち学士、修士、博士号取得を目指す学生の支援をし、これからも彼らは複数の支援システムの中で学習を継続する。(NRTテレビ)

8月17日 - エルドアンの報道官：クルディスタン地域との関係は重要だが独立は容認しない



アンカラ:トルコ大統領府報道官イブラヒム・カリンは16日、イラク北部におけるクルディスタン地域が一方的に独立宣言をした場合、これを容認しない意向を明らかにした。また多民族が居住する油田地帯キルクークを編入することに強く反対した。カリン氏はそのクルディスタン地域政府への「非難」にも関わらず、周辺地域との関係維持は「重要」だとしたカリン氏はトルコのラジオ局のインタビューに対し、「独立を問う住民投票がなされるならば、彼らはその結果どうなるだろうか？」と遠回しに質問をなげかけた。加えて「もし一方的に独立宣言を行えば一体誰がそれを承認するのか？イ

ラク政府、トルコ、イランやその他近隣諸国はこれを承認しない」し、クルド人はただ「自らを問題の渦中に落とす」だけだと表現した。(ルダウ)

8月17日 -クルド人代表団は独立投票におけるロシアの立場を称賛

バグダッド：住民投票の最高評議会の代表団を率いるロジ・ヌリ・シャワイスは16日ロシアメディア・スプートニクの取材に対し、クルディスタン地域の独立を問う住民投票に対するロシアの立場を最高だと評価した。ロシア外相セルゲイ・ラブロフは7月上旬、クルド人の正当な願望は国際法の枠組みで実現されるべきとロシア政府の太刀を表明した。ラブロフ外相はクルド人の要求は平和的に表明されることを望むとロシア政府の希望を述べていた。シャワイス氏は、「ロシア政府の立場は今のところ最も評価されるべきものだ。ロシアと我々の関係は遠く帝政時代まで遡る。フセイン政権崩壊後、ロシアとの関係はますます強くなるようになった」と発言した。(スプートニク)

8月18日 -アメリカ軍はダーイシュ壊滅後もシリアのクルディスタンに留まる



2016年5月シリア北部で活動するアメリカ特殊部隊員(写真：AP)

カミシュロ：シリア領内の対ダーイシュ作戦においてアメリカ政府の最大の同盟相手であるクルド人勢力によると、アメリカ軍部隊はジハーディスト勢力を掃討した後もシリアのクルディスタンに留まる予定である。クルド人支配地域との関係維持がアメリカの目的だといわれている。

アメリカが支援するシリア民主軍(QSD)報道官タルル・スロはロイターに対し、QSDはアメリカの地域における「戦略的利益」を維持するのに必要だとみなされていると発言した。スロ氏によれば、「アメリカ政府は今後数十年にわたる地域戦略がある。彼らと(シリアの)北部地域の統治者との間には長期にわたる軍事的、経済的、政治的合意がある」。QSDの中核を占める人民防衛隊司令官は先月、アメリカ軍がQSDが支配する地域に7つの軍事基地を設置したことを明らかにした。それにはトルコとの国境に近いコバニにおける空軍基地も含まれている。アメリカ軍はまた砲撃と空爆並びに特殊部隊による支援を行った。(ロイター)

8月19日：アメリカ政府報道官：ペシュメルガとペンタゴンの覚書は完了

スレイマニ：アメリカ国防省報道官エリック・パホンは、ペシュメルガと同省の間で交わされた覚書の内容は完了したと発表した。パホン報道官は17日NRTテレビの取材に対して、ダーイシュ壊滅作戦が始まった2014年以來、ペンタゴンは数百万ドルに及ぶ兵士の給料、補給、武器弾薬、装備への支援を行ったと発言した。さらに「2016年6月に国防省とペシュメルガ省が結んだ、モスル作戦を支援するための給料、補給物資援助に関する覚書も完了した」と補足した。パホン氏は、ダーイシュ作戦継続とイラクにおけるダーイシュ支配地奪還にはクルディスタン地域政府とイラク中央政府の協力が「不可欠」だとした。(NRTテレビ)

8月21日 -クルディスタン地域代表団がシーア国民連合と会合

バグダッド：クルディスタン地域の住民投票への支持を呼びかけるため派遣された代表団は20日夜、バグダッドにおいてシーア国民連合と一週間のうちで二度目の会合を行った。代表団の一員であるモハメッド・アフメドはルダウに対し、双方に問題解決に向けた「真剣」な姿勢があるとし、「我々は真剣な対話を行い、我々の互いの要求に関する視点はより明確になった」発言した。シーア国民連合から住民投票延期の要求があったかという問

いに対しては、「確かに彼ら全員がそのことを要求し、我々はその使命を適切なじせ時期に行うと発言した」と答えた。来週からはペシュメルガ、石油、予算について議論が行われることが明らかにされている。(ルダウ)

8月21日 - キルクーク知事、クルディスタンの住民投票に参加と発言

キルクーク：キルクーク知事ナジマルディン・カリムは9月25日に実施予定のクルディスタン地域の独立を問う住民投票に、キルクーク地域も参加する意向を明らかにした。カリム氏は20日、国連事務総長指名のイラク特別代表ジャン・クビスとキルクークで会談を行った。カリム氏は声明において、「キルクークは9月25日実施予定の住民投票に参加する」と表明した。また選挙はイラクの他の地域と同様にキルクークでも実施されるべきと主張した。一方クビス特別代表はイラク中央政府との対話による解決を主張した。(NRTテレビ)

8月23日 - トルコ外相がクルディスタン地域訪問



ヘウレル：トルコ外相メヴレット・ジャブシオールは23日、大統領マスード・バルザニを含む高官と会談するためイラクのクルディスタン地域に到着した。ジャブシオール氏は23日朝バグダッドを訪問しクルディスタン地域政府高官に独立を問う住民投票実施の決定は誤りでトルコ政府は中止を求めると伝える意向をイラク政府側に伝えた。(ロイター)

8月24日 - クルディスタン住民投票評議会が独立賛成キャンペーンを開始

ヘウレル：クルディスタン地域住民投票評議会は、9月25日の投票日に向けて独立に賛成票を投じるよう呼びかけるキャンペーンを開始することが、ルダウの評議会メンバーへの取材で明らかになった。投票日については23日の長時間に及ぶ会議の後正式に決定された。評議会はさらに独立クルディスタンにおける少数民族、宗派の権利擁護規定を盛り込むことについても決定した。これは中央政府との交渉チームが先週一週間イラクの首都において滞在した後初めての会議であった。評議会の一員であるハリル・イブラヒムは会議後ルダウの取材に応じ、「住民投票に向けたキャンペーンのための委員会を結成」が決定されたと答えた。イブラヒム氏は独立に賛成票を投じるキャンペーンに協力可能な地域に事務所を開設することも決定されたと明かした。(ルダウ)

8月24日 - エルドアン、ペンタゴン長官にシリアのクルド人への武器供与へ「懸念」を表明

アンカラ：トルコ大統領レジェップ・タイップ・エルドアンは23日、トルコ訪問中のアメリカ国防省長官ジム・マティスに対し、アメリカがシリアのクルド人勢力に対し武器供与を続けていることに懸念を表明した。トルコ政府はシリアのクルド人勢力をテロ組織とみなし、支援政策はNATOの同盟関係に軋轢をもたらずと警告している。マティス氏はイラクにおいて対ダーイシュ作戦の検討とテロ組織壊滅を遅らせる政治問題にとらわれないよう促した後に、日帰りのトルコ訪問を行った。マティス氏はヌレッティン・ジャニキとの会談後、大統領宮殿でエルドアンとも会談した。アメリカ国防省は5月にシリアのクルド人が主導する人民防衛隊(YPG)に対し軍用車含む武器供与を開始した。この会談中エルドアンはアメリカのYPG支援に対し「懸念」を伝えたと大統領府は伝えている。(ヒューリーエット)

8月27日 - シリアのクルディスタンで初の選挙準備



カミシュロ：シリアのクルディスタン、通称「ロジャバ」の政府高官が26日にAFPに語ったところによると、シリア北部の連邦地域における初の地域占拠の準備にとりかかった。連邦地域憲法制定議会の共同議長であるハディヤ・ユーセフ氏は9月から三度の選挙が開始されると発言した。ユーセフ氏がカミシュロにおける最高会

議の予備委員会で選挙について発言し、「この段階において我々地域評議会と利害関係者との会議によって選挙過程の概要を決める」とした。この会議にはクルド人、アラブ人、シリア正教徒やその他の諸党も参加し、三回の選挙がどのように実施されるか討議する。9月22日に実施される第一回選挙では、地区レベルの代表選出の過程を見る。町村、地域の評議会選挙は11月3日に実施される。それから、1月19日3つのカントンの立法評議会と同じく統合立法政府の選挙を行う予定だ。ユーセフ氏によると、「どの地域も社会契約に反しない範囲での固有の地域法を制定する権利を持った立法議会を持つ」とされる。立法議会は任期4年だが地域評議会は任期2年に設定される予定だ。(AFP)

8月27日 - PDK : クルディスタン住民投票はペシュメルガが駐留するところ全地域で実施される

ヘウレル : クルディスタン民主党(PDK)のイラク議会議員シャハワン・アブドゥッラーは、クルディスタン地域における住民投票の実施延期は、将来のどの日に再実施するか決定することに左右され、連邦政府はそれに対処する用意がないことを認めた。アブドゥッラー氏はイラク国営通信に対し「住民投票への理解を得るためのクルディスタンからの代表団派遣は疑いなく成功であったし、両派は明確な理解を共有していた。さらにこれからイラク国民連合の代表団がヘウレルを訪れるだろう」と発言した。さらに「住民投票はペシュメルガが駐留する全ての解放された地域で行われる。ペシュメルガがいるところが将来の国境になる」と付け加えた。(ninanews.com)

8月28日 - ウクライナ、スリランカがクルディスタン地域に名誉領事館開設

ヘウレル : ウクライナとスリランカはイラクのクルディスタン地域に名誉領事館を開設することを決定し、これによって外国の外交事務所の数は38にのぼることになった。クルディスタン地域政府(SHK)国際関係事務所はこの2か国の決定を歓迎し、これを経済、貿易、文化において関係強化の一歩とすることを目指している。名誉領事館開設許可はSHKの対外関係強化政策の一環であると声明は伝えている。一連の動きはイラク中央政府とSHKの賛助によってなされた。ウクライナとの交渉は昨年9月に始まり、スリランカが地域に利害を表明し外交関係を樹立したのは2013年のことだった。(ルダウ)

8月28日 - クルド人部隊司令官 : ラッカのダーイシュ掃討は二か月の間で終わる

シリアのクルド人部隊の上級司令官アフマド氏によると、ダーイシュが首都するダーイシュからのテロリスト掃討は二か月ほどで終了する。しかし彼女は最後に近づくにつれて



戦闘は激しくなると予想している。アフマド氏はロイターとの初めてのインタビューに対し、「我々は戦闘が終結する正確な時期を予測することはできない。というのも戦争において状況は刻一刻と変化するからである。しかし抵抗はそう長く続かないとみている。そして我が軍の作戦計画において二か月以内にラッカを解放することができる」と観測を伝えた。

この女性司令官は2011年にシリア内戦が始まる前は女性権利運動家であり、

クルド人が主導する人民防衛隊(YPG)の女性部隊を指揮している。YPGはダーイシュとの戦いで大きな役割を果たしてきたシリア民主軍の最も強力な構成部隊であり、女性部隊はラッカの激しい戦闘において最前線に立ってきた。(ロイター)

8月30日 - クルディスタン地域治安当局はダーイシュの「容疑者」のイラクへの移送を疑問視



ヘウレル：イラクのクルディスタン地域治安当局はダーイシュの「容疑者」数百人をシリア—レバノン国境からイラクとの国境へ移送することに強い疑問を呈している。クルディスタン地域安全保障評議会は29日の声明で、「ダーイシュ戦闘員とヒズボラ及びシリア政府軍との間で結ばれた協定によれば、数百人もの戦闘員は武器弾薬を保持したままイラク国境へ移送されることになる。我々はこの決定を憂慮し容疑者たちの行く先を考慮している。このような行為は多くの疑問を生じさせる。我々はすべての関

係諸勢力にこのような行為に断固とした姿勢をとるよう要求する」と懸念を表明した。(ルダウ)

ニュース選出：ワッカス・チョーラク、翻訳：並木宜史